

日本小児外科学会 理事立候補所信表明

曹 英樹

平成5年 大阪大学卒

私は平成5年に大阪大学医学部を卒業後、同附属病院、大阪府立病院、大阪母子医療センターにて外科の研修を行いました。その中で、先天的に障害を持って生まれた子供たちとそのご家族に、暖かく寄り添う故井村賢治部長の姿をみて小児外科医を志し、大阪大学小児外科に入局しました。故岡田正教授に師事し外科栄養代謝を学び、諸先輩の理解を得て黎明期の小児内視鏡手術の導入に尽力しました。専門医取得後は福澤正洋教授の指導で臨床、教育、研究に従事し、平成25年から大阪母子医療センターで多くの小児外科手術の執刀、若手小児外科医の手術指導を行って参りました。奥山宏臣教授の推薦もあり、縁あって令和2年より川崎医科大学小児外科教授を拝命し、小児外科診療、学生教育に携わっております。

本学会では、国際広報委員会(通算6期12年)、編集委員会(通算4期8年)トランジション委員会(2期4年)を務めさせていただきました。

我が国ではかつて経験したことのない、未曾有の超少子高齢化が加速し、小児医療は大きな節目を迎えております。構造的な変化の波が押し寄せ、小児外科医を取り巻く環境もますます厳しくなっています。本学会が支えてきた小児外科をさらに発展させて、子どもたちの命と生活を守り抜くことが我々の責務です。そのためには、これまでの常識を超えて、集約化と互いの連携を強力に推し進めると同時に、高度専門医療の発展と日常診療の充実に活路を開いていかねばなりません。困難な課題が待ち受けておりますが、これまでの経験と人脈を活かし、お世話になった本学会に恩返しができるればと思い、理事に立候補いたしました。

卒後30年以上経ちましたが、最初に小児外科医を目指したときの気持ちを忘れず、子どもたちに寄り添い、未来ある若い先生方の夢と希望をつなぐために、誠心誠意努める所存です。皆様のご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。